

重要伝統的建造物群保存地区

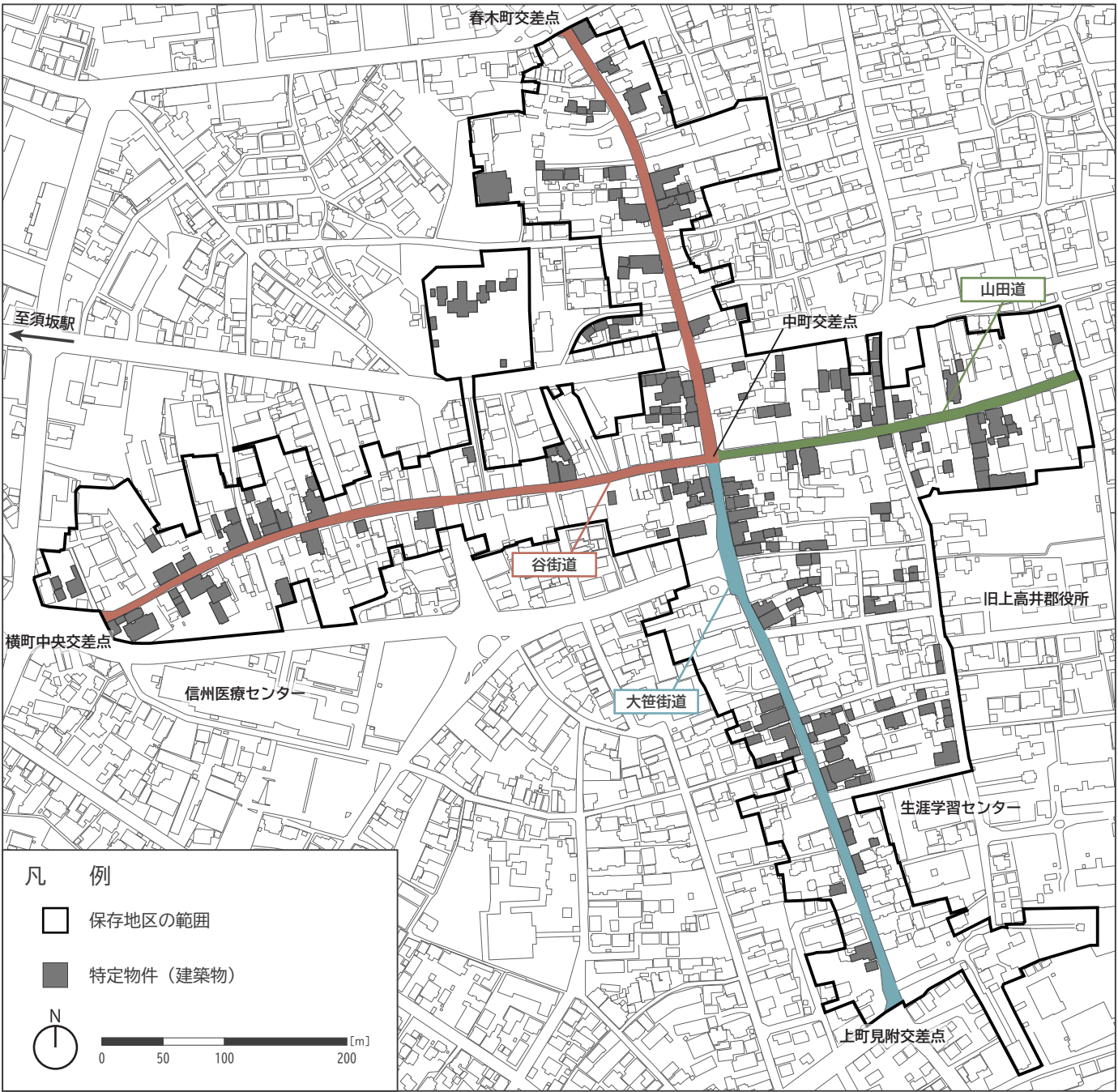
町系系
町家商

須坂

長野県須坂市

保存地区の概要

■名 称	須坂市須坂伝統的建造物群保存地区	■重伝建地区選定年月日	令和 6 年 8 月 15 日
■所在地	長野県須坂市大字須坂字八木沢、字芝宮、 字春木町、字中町、字新町、字常盤町、 字山崎、字上町、字横町、字宗石、字青木 の各一部	■保存地区の種別	製糸町・商家町
■面 積	約 18.3 ヘクタール	■伝統的建造物等特定数	建 築 物 210 棟 工 作 物 49 件 環境物件 1 件



須坂市須坂伝統的建造物群保存地区の範囲及び特定物件（建築物）の位置

保存地区の歴史

■十字の街道に沿った町並み

保存地区は西から北へ抜ける谷街道、南へ抜ける大笹街道、東へ抜ける山田道の交点である「中町の辻」(現在の中町交差点)を中心に、十字の街道に沿って町が形成されており、江戸期以前から交通の要衝として成立していたと考えられます。近世には須坂村(保存地区とその周辺を範囲とする村)に須坂藩堀氏の陣屋が置かれ、政治的な陣屋町の性格を持ちましたが、中町の辻周辺には商人の屋敷地、その外縁部に農人や職人の住宅が建ち並び、町家や農家、武家屋敷が混在する町が形成されました。

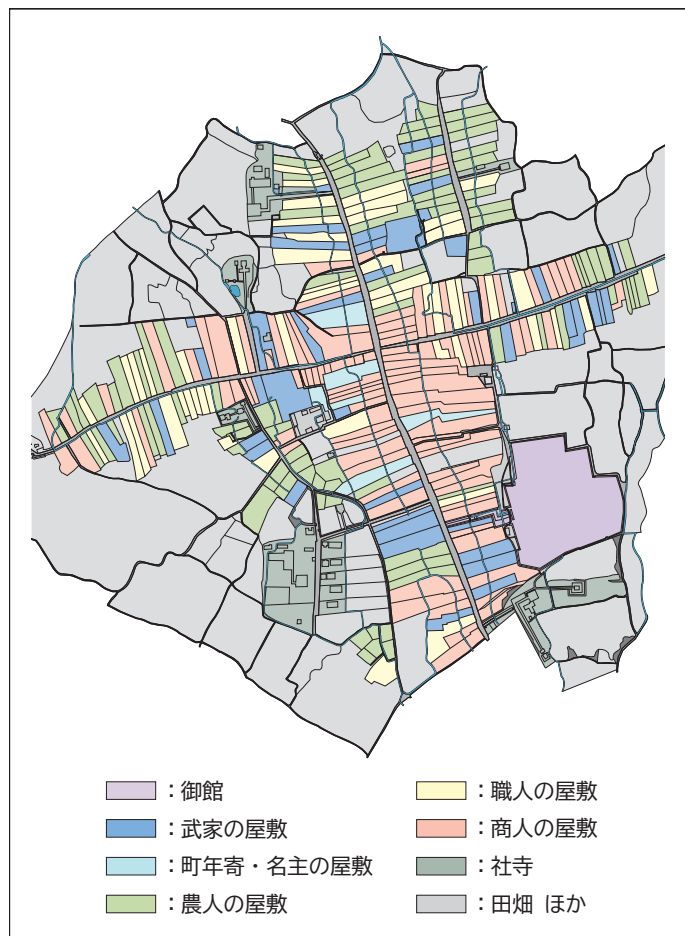
■製糸業の隆盛

江戸期から大笹街道に面した敷地では、街道と並行して敷地の中ほどを流れる「裏川用水」と呼ばれる水路が整備されており、人々の生活と精米・搾油などの水車商いを支えていました。明治初期には「裏川用水」を活用した水車動力による器械製糸業が始まり、また、県下に先駆けて製糸結社「東行社」を設立し共同出荷体制を整えるなど、製糸業の近代化に伴って須坂町(明治9年に須坂村を改称)は先進的な製糸業地として発展し、人口が急増するなど商業地化が進みました。

明治後期から大正期には製糸業の隆盛は全盛期を迎え、町には製糸業にかかわる多くの人が集まり、近世からの商業の町須坂をさらに繁栄させました。大笹街道の東裏の畑地であった地区は、町の発展と人口増加に伴い長屋や小規模な住宅が高密度で建てられ、大工、建具屋、桶屋、下駄屋といった職工などが住み製糸業の発展を支えました。また、製糸業にかかる商談の場として料亭の需要も増え、明治中頃にできた浮世小路には料亭と置屋が軒を並べ、旦那衆や芸者衆が行き交う花街として賑わいました。

■町の発展と町並みの変化

大正期に入り商店街や繁華街が拡大し、さらには町域を拡大するなど、製糸業を基幹産業として町は大きく発展しました。こうした発展に伴って蓄えられた大きな経済力を背景に、街道沿いは耐火性能を



天保8年(1837)「文政十丁亥歳五月須坂町内絵図写」
(須坂市立博物館蔵) リライト

(『須坂－伝統的建造物群保存地区調査報告書－』より)



明治後期の町並み(須坂市立博物館蔵)

備える大壁造の豪壮な建築物群に建て替わり、あわせて社会資本の整備や私立学校の設立など周辺に先駆けた事業が数多く行われました。昭和期には世界恐慌の影響を受け製糸業は衰退しましたが、当時の建造物群が現在も良好な景観を形成しています。

伝建地区のこれまでの取り組み

■町並み保存のはじまり

保存地区における町並み保存の取り組みは、昭和60年から地元新聞で連載された記事が契機となりました。これは、歴史的建造物の解体に対する危機感や保存に対する意識の芽生えによるもので、町並みや民家の美しさ、その歴史的背景を市民が認識するきっかけとなり、町並みの保存が始まりました。

町並みや歴史的建造物の残存状況については、当時から保存対策調査を実施し調査報告書を刊行しましたが、都市計画道路整備事業との折り合いがつかず、保存地区の決定には至りませんでした。しかし、町並み保存の重要性から民間や行政で様々な取り組みが行われ、現在の町並み保存に繋がっています。



街道沿いに土蔵造の建築物が建ち並ぶ町並み

保存地区の特徴

保存地区は近世から十字の街道に沿って町が形成されており、近代以降の製糸業の発展とともに豪壮な建造物群が建てられ、その町並みが現在まで継承されています。そのため、近世から在郷町として成立していた旧須坂村の範囲で十字の街道に面する町並みを中心に、近代の製糸業の発達とともに繁栄した街区などをまとめて保存地区としています。

街道沿いには、主に重厚な土蔵造の店舗等が建ち並んでいますが、街道に面さない町並みは長屋や小規模住宅が高密度に建ち並び、低い軒を連ねています。街道に面する土蔵造の町並みの奥には、土蔵や製糸業関連の付属屋などが建っており、奥に広がる庭と

■重伝建地区選定に向けた経過

平成22年に歴史的建造物の残存状況について調査すると、先の調査対象であった建造物の約半数が解体されていることが判明し、町並みの保存が急務の課題であることから再度重伝建選定に向けた動きが始まりました。平成29年から伝統的建造物群保存対策調査を実施し、令和2年に『須坂—伝統的建造物群保存対策調査報告書—』を刊行しました。調査報告書では、町並み全体の残存状況等を把握する悉皆調査や個々の建造物の特性を把握する個別調査、今後の保存・活用の構想についてまとめました。

市は調査報告書の内容を受けて、伝統的建造物群の保存・活用を進めるため、令和3年に「須坂市伝統的建造物群保存条例」を制定し、保存審議会で保存地区の範囲や保存活用の方針を検討しました。同時に、都市計画道路整備事業においても見直しを図られ、都市計画審議会の答申を受け、令和5年に「須坂市須坂伝統的建造物群保存地区」を都市計画決定し、伝統的建造物等の決定や保存整備の計画、助成措置などを定めた保存活用計画を告示しました。

これらの過程を経て、重伝建地区選定の申出を行い、国の文化審議会への諮問・答申をもって、令和6年8月15日、重伝建地区に選定されました。

ともに豊かな空間を形成しており、街道沿いに設けられた脇門や小路からその様子が垣間見えます。



店舗と脇門が建ち並ぶ町並み

伝統的建造物の特徴

■伝統的建造物（建築物）の特徴

街道沿いには重厚な土蔵造の建築物が軒を連ねており、瓦葺きで切妻造のものが一般的ですが、妻入と平入が混在しており、中には撞木造を採用する建築物もあります。外壁は土壁で、白漆喰仕上げや中塗り仕上げなど多様性がみられますが、正面の一階部分には共通して下屋を設けており、下屋と脇門が町並みの連続性を形成しています。細部に目を向けると、軒を出桁で支えるものや、軒先を蛇腹で装飾するなど華やかな意匠のものも多く、それぞれの建造物に個性がみられ、当時の繁栄の気配を感じることができます。

製糸業の発展とともに建てられた長屋などは、切妻造で瓦葺きや板葺きが混在します。外壁は土壁ですが、真壁造とする建築物も多くみられます。当時の人口増加に伴って高密に建てられた建築物は、製糸業の発展を支えた人々の生活を偲ばせます。

■伝統的建造物（工作物）の特徴

町並みを構成する主要な工作物として、門・塀・石積みが現存しています。特に、街道沿いに建つ店

舗の横に設けられ、奥に建つ主屋へアプローチするための脇門は町並みを構成する重要な要素で、土蔵造の建築物と脇門が連続する様子は須坂の町並みの特徴です。また、建造物の基礎や敷地境界などに設けられたぼたもち石積みと呼ばれる大きな丸石による石積みは、製糸業で財を成した製糸家たちの富と権威の象徴とされています。間口の広い敷地では、街道沿いに土塀が設けられることや、脇門ではなく薬医門が設けられることもあり、多様な工作物が町並みにアクセントを与えています。

■伝統的建造物（建築物）の間取り

店舗の背後に建つ主屋は、典型として二列で構成される間取りを有していますが、近在の農家と共通する間取りや町家としての性格を強く持つものなどが混在しており、一般的に東日本にみられる民家の間取りとは異なる様子がみられます。間取りの解釈には研究の余地がありますが、保存地区ならではの特徴を有しており、外観だけでなく内部の構成においても特筆すべきものがあるといえます。



妻入と平入が混在する町並み



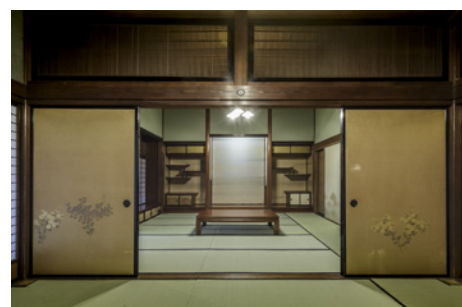
軒の低い長屋が連なる街区



街道沿いに設けられた脇門



塀の基礎に設けられたぼたもち石積み



接客空間として整えられた座敷



令和6年12月発行

須坂市 須坂市教育委員会

社会共創部 文化スポーツ課

〒382-8511 長野県須坂市大字須坂 1528 番地 1

☎026-245-1400

